

2017年9月期 決算説明会資料

2017年11月20日(大阪)
11月21日(東京)



1. 会社概要

2. 2017年9月期決算サマリー

3. 今後の取り組み

(ご参考資料)



商号	IMV株式会社 [英文社名] IMV CORPORATION
会社設立	1957年(昭和32年)4月17日
資本金	4億6481万円
従業員数	365名 (2017年9月30日現在 連結)
年間売上高	108億 9,834万円 (2017年9月期 連結)
上場証券取引所	東京証券取引所JASDAQ市場
証券コード	7760
決算期	9月30日



グローバルネットワーク



Osaka

大阪



- ・本社
- ・大阪営業所
- ・技術本部
- ・大阪テストラボ

Tokyo

東京



- ・東京営業所
- ・東京エンジニアリングサービス部



- ・MESエンジニアリングサービス部
- ・東京テストラボ

Thailand

タイ



IMV (THAILAND) CO., LTD.

China 中国



IMV CORPORATION
Shanghai Representative Office

Nagoya

名古屋



- ・名古屋営業所
- ・名古屋テストラボ

Uenohara

上野原



上野原サイト
高度試験センター

U.K.

英国



IMV EUROPE LIMITED



IMV EUROPE LIMITED
European Manufacturing Centre



1G DYNAMICS LIMITED

Germany

ドイツ



IMV EUROPE LIMITED
German Sales Office

U.S.A.

アメリカ



IMV America, Inc.

IMV CORPORATION

事業セグメント



メジャリングシステム



テスト&ソリューションサービス

TSS
Test & Solution
Service

MES
Measuring
Systems

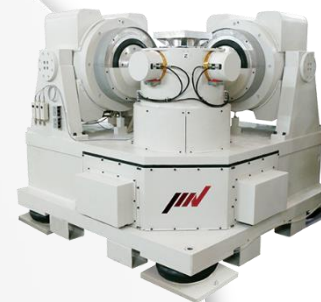
10%

15%

売上
構成比

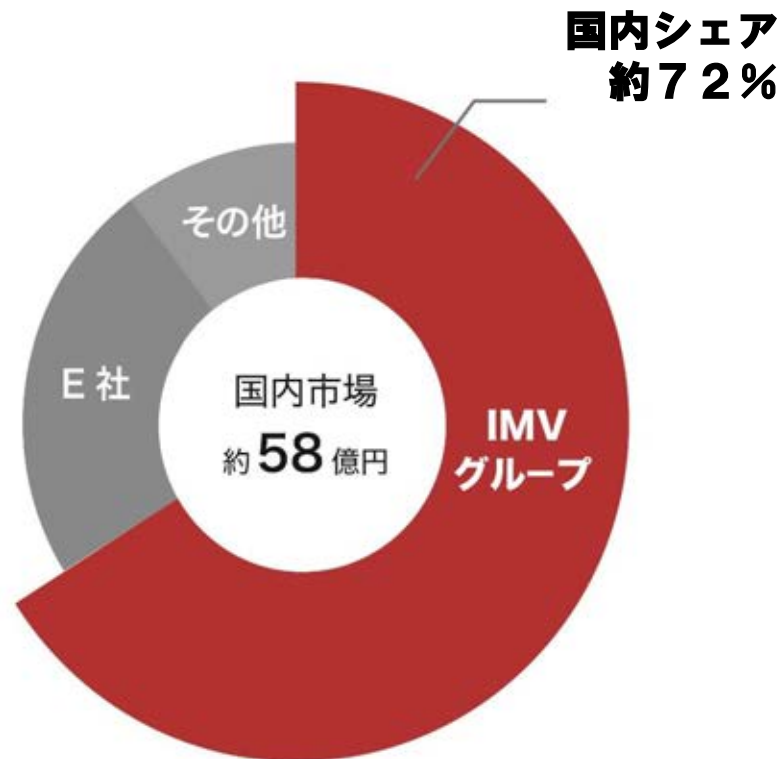
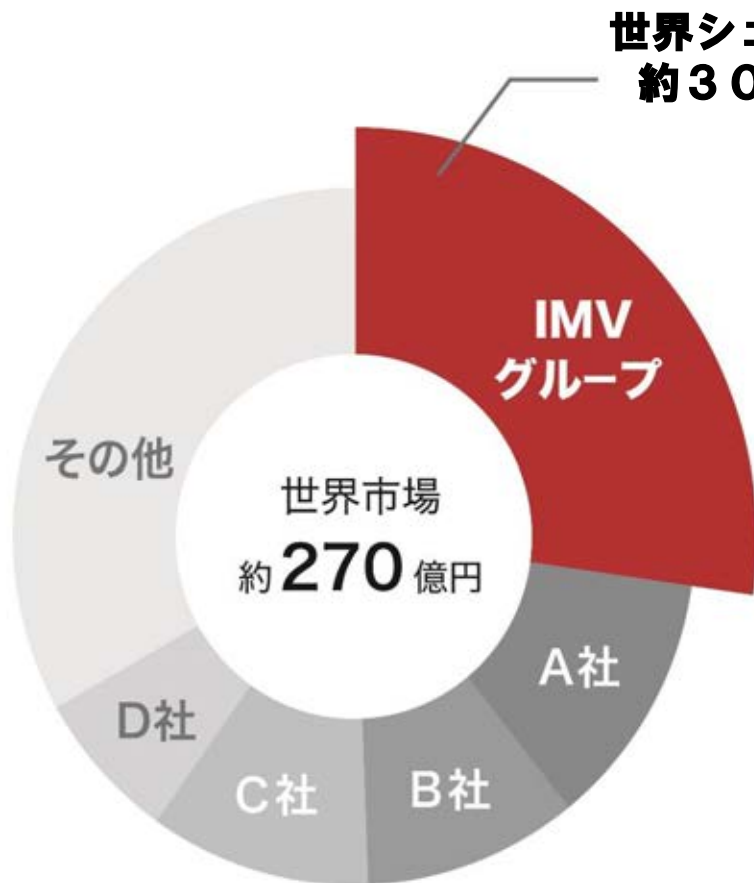
75%

DSS
Dynamic
Simulation
Systems



振動試験装置

108億 9,834万円
(2017年9月期 連結)





1. 会社概要

2. 2017年9月期決算サマリー

3. 今後の取り組み

(ご参考資料)



(単位:百万円)

	17/9期 実績	16/9期 実績	コメント
売上高	10,898	10,374	振動シミュレーションシステムの点検修理業務が好調だった事に加え、東京テストラボ上野原サイトにおける稼動が順調に推移した結果、増収となりました。
経常利益	1,389	954	増収効果や円安による為替影響等により、前年同期比 145.5%の増益となりました。
純資産	5,996	5,072	親会社株主に帰属する当期純利益(942百万円)の計上により順調に増加しました。
フリーキャッシュフロー	504	657	営業活動による収入により、1,201百万円のキャッシュが増加したものの、有形固定資産の取得等による、投資活動による支出により、696百万円のキャッシュが減少しました。
売上高経常利益率	12.7%	9.2%	増収効果や円安による為替影響等により、売上高経常利益率は改善しました。
自己資本比率	44.6%	43.5%	親会社株主に帰属する当期純利益(942百万円)の計上により純資産が増加し、財務安全性がさらに向上しました。
自己資本当期純利益率 (ROE)	17.3%	12.1%	親会社株主に帰属する当期純利益(942百万円)の計上により、自己資本当期純利益率は向上しました。

決算概要(連結)



(単位:百万円)

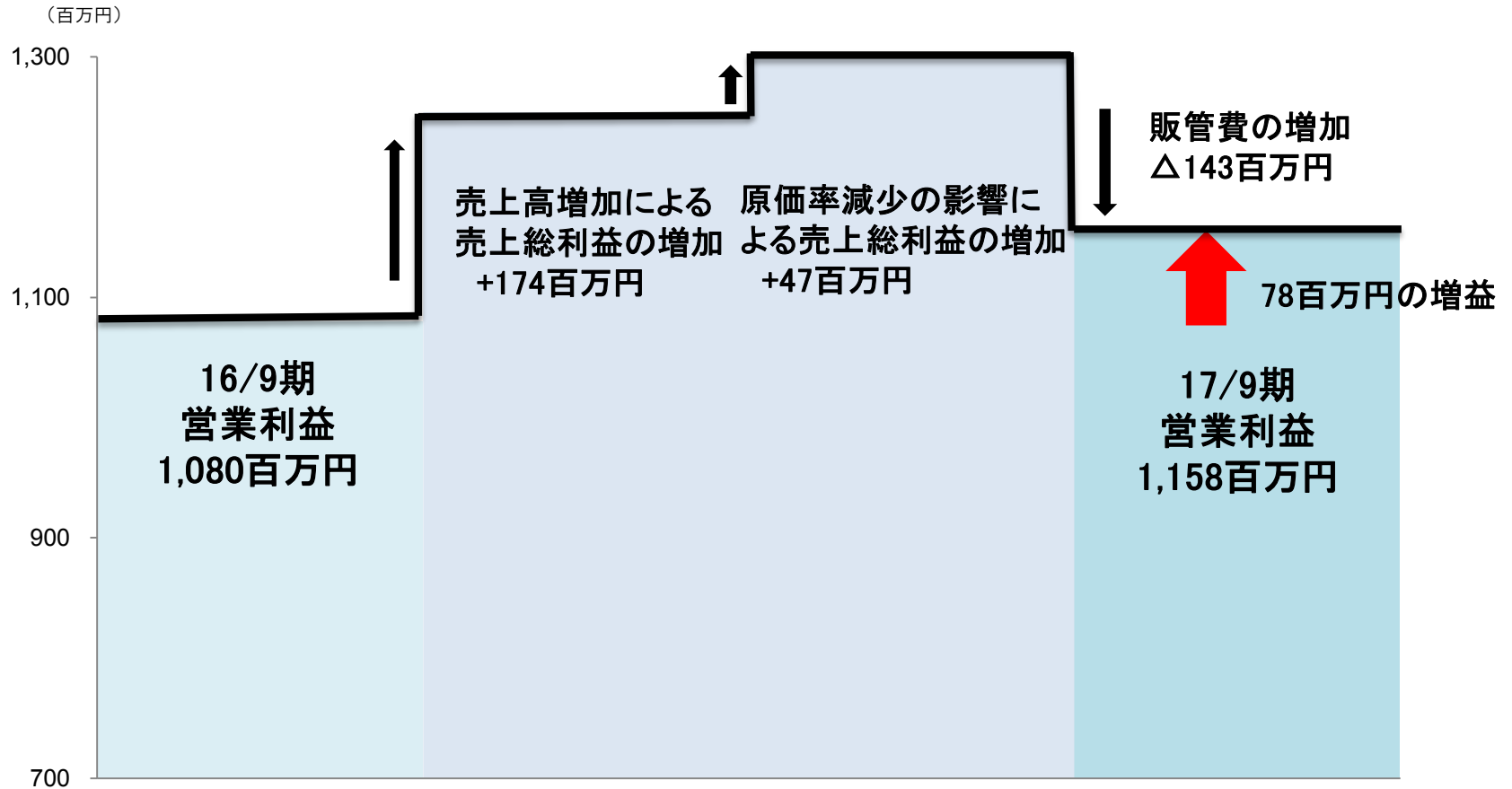
	17/9期 実績	16/9期 実績	増減額	増減率	17/9期 予想	増減率
受注高	9,626	10,383	△757	△7.3%	—	—
売上高	10,898	10,374	+523	+5.0%	10,800	+0.9%
営業利益 (営業利益率)	1,158 (10.6%)	1,080 (10.4%)	+78	+7.3%	1,150 (10.6%)	+0.7%
経常利益 (経常利益率)	1,389 (12.7%)	954 (9.2%)	+434	+45.5%	1,200 (11.1%)	+15.8%
親会社株主に帰属 する当期純利益 (当期純利益率)	942 (8.6%)	583 (5.6%)	+359	+61.7%	780 (7.2%)	+20.8
設備投資額	500	582	△82	△14.0%	—	—
減価償却費	376	337	+39	+11.7%	—	—
研究開発費	511	486	+25	+5.1%	—	—
従業員数(人)※	365	314	+51	+16.2%	—	—

※△は損失、減少を表します。従業員数には、期中平均臨時従業員数を含みます。

売上高は前期比523百万円増収の10,898百万円となりました。増収効果や円安による為替影響もあり、営業利益は前期比78百万円増益の1,158百万円、経常利益は前期比434百万円増益の1,389百万円となりました。親会社に帰属する当期純利益は前期比359百万円増益の942百万円となりました。

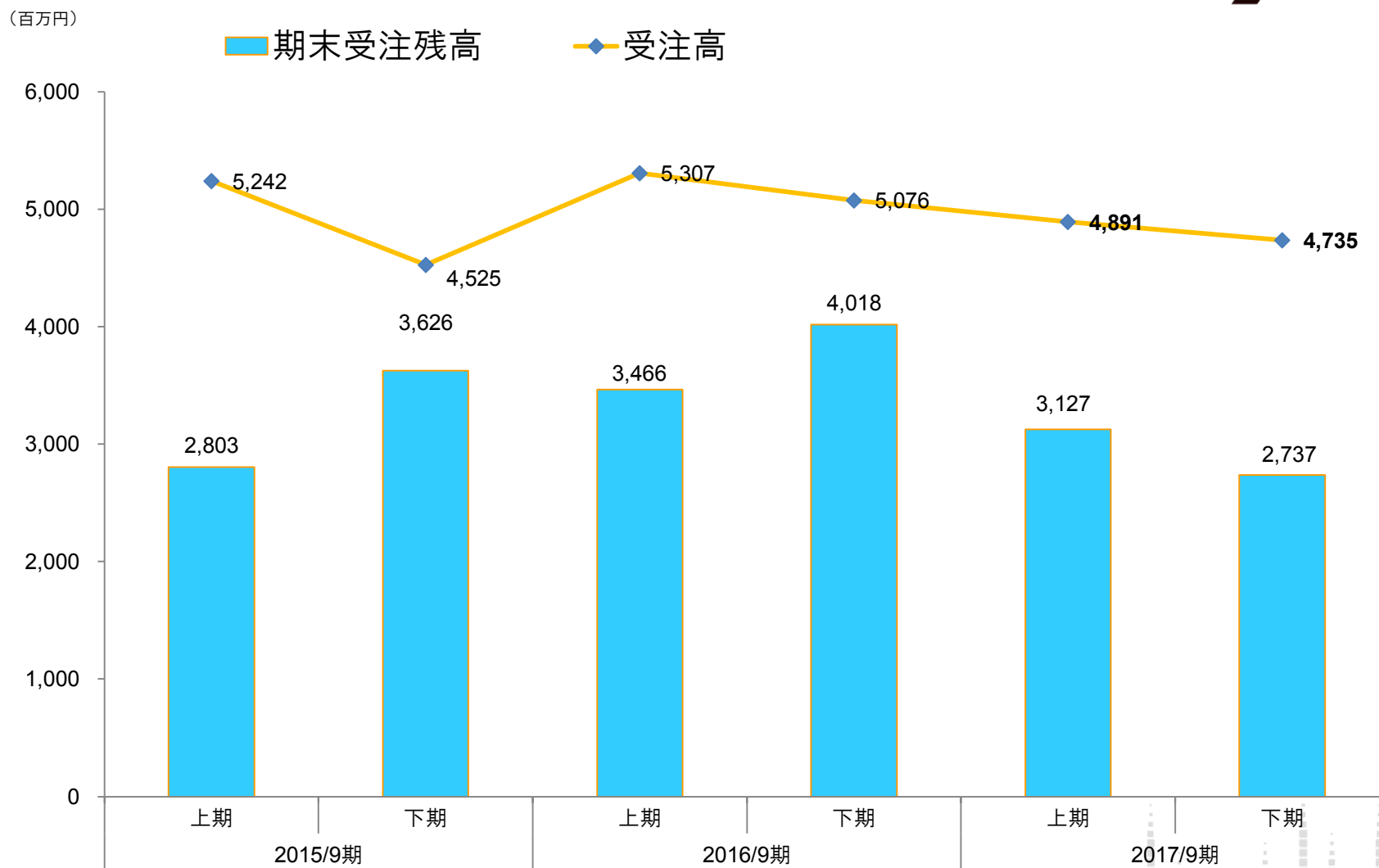


営業利益増減要因(連結)

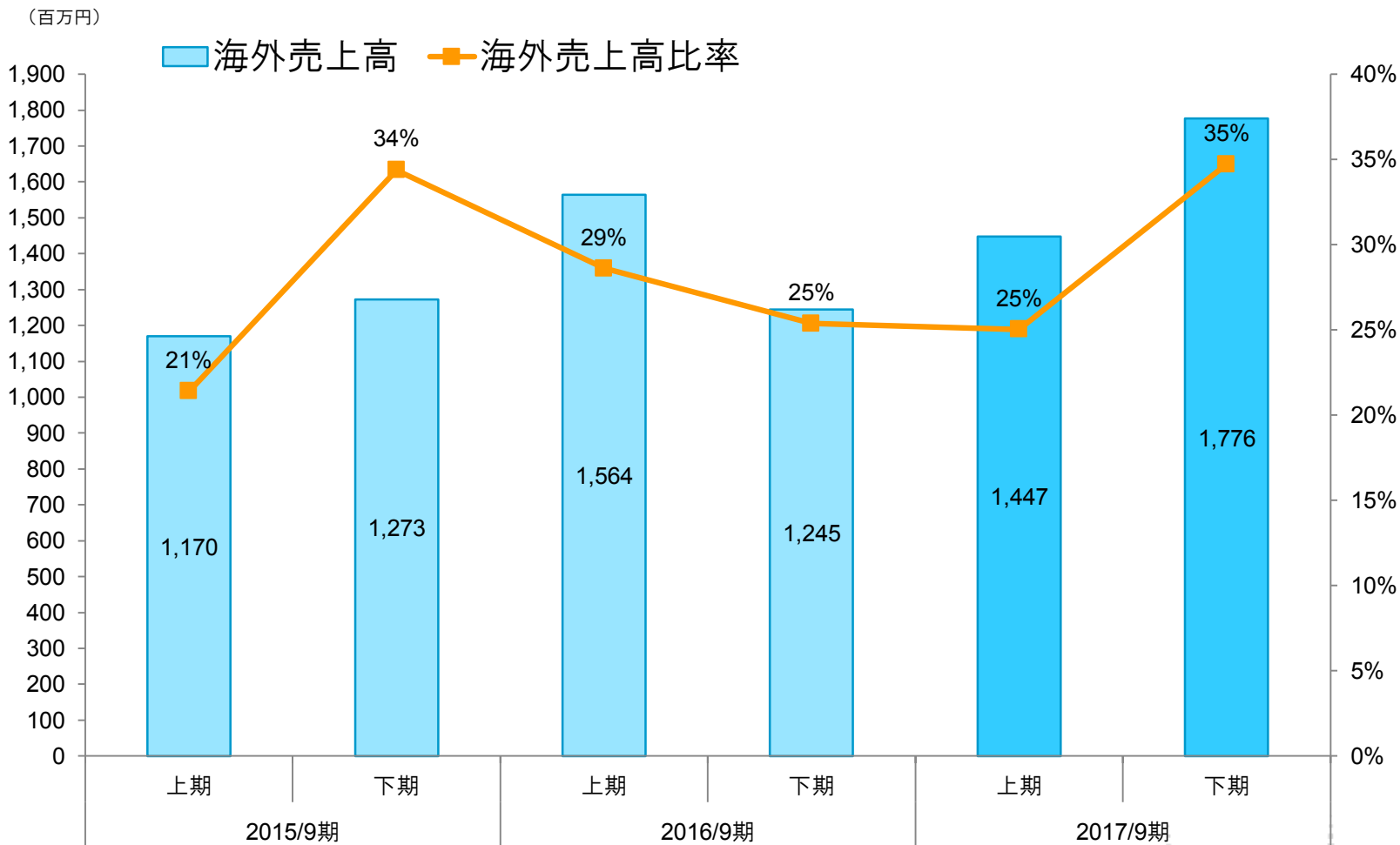


人員増加による労務費及び研究開発費の増加等により販管費が増加しましたが、増収による売上総利益の増加が大きく、営業利益は1,158百万円となりました。

受注の状況

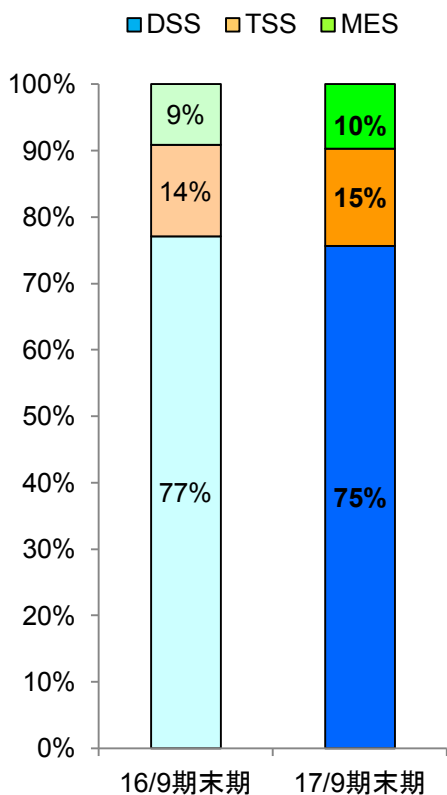


海外売上高比率の増減

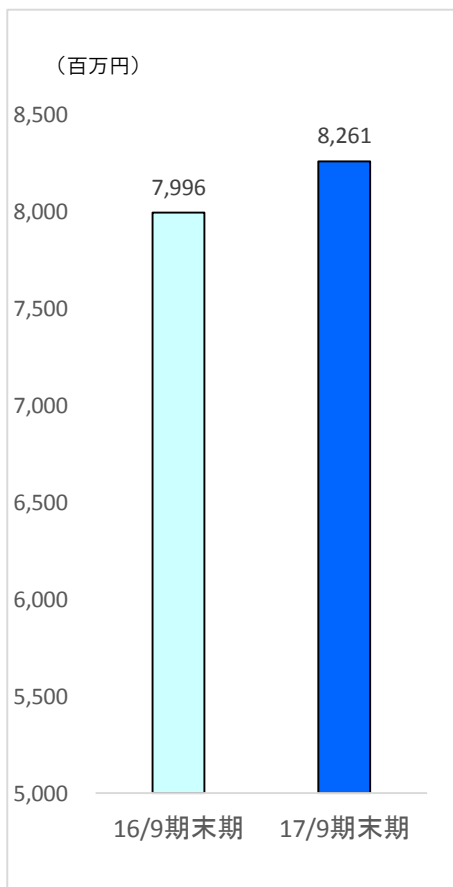




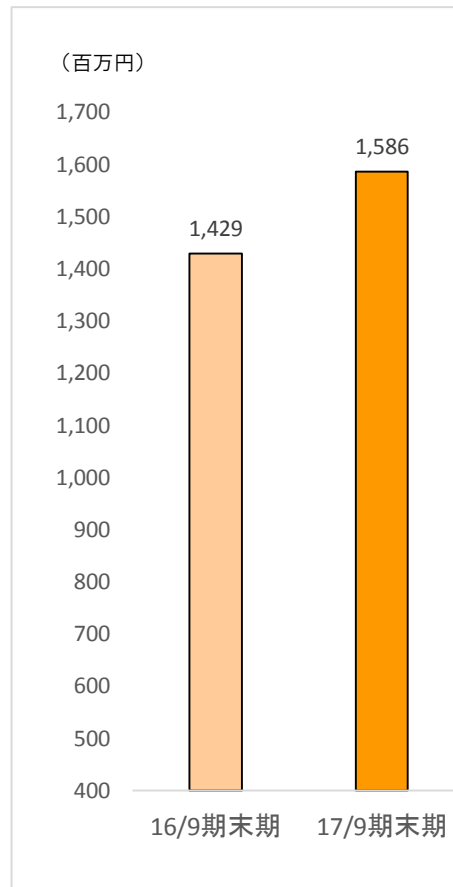
○ 品目別売上構成率



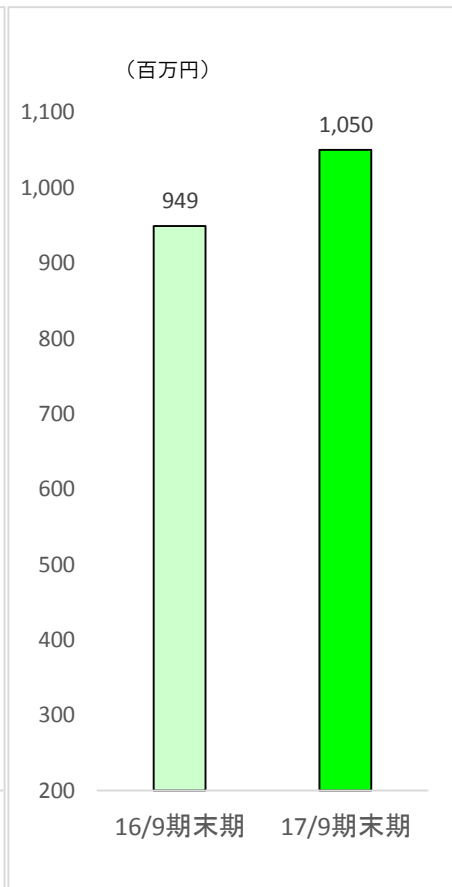
○ DSS事業



○ TSS事業



○ MES事業



すべての品目において国内を中心に順調に売上高が増加しております。また、TSSは過去最高売上高を更新しております。

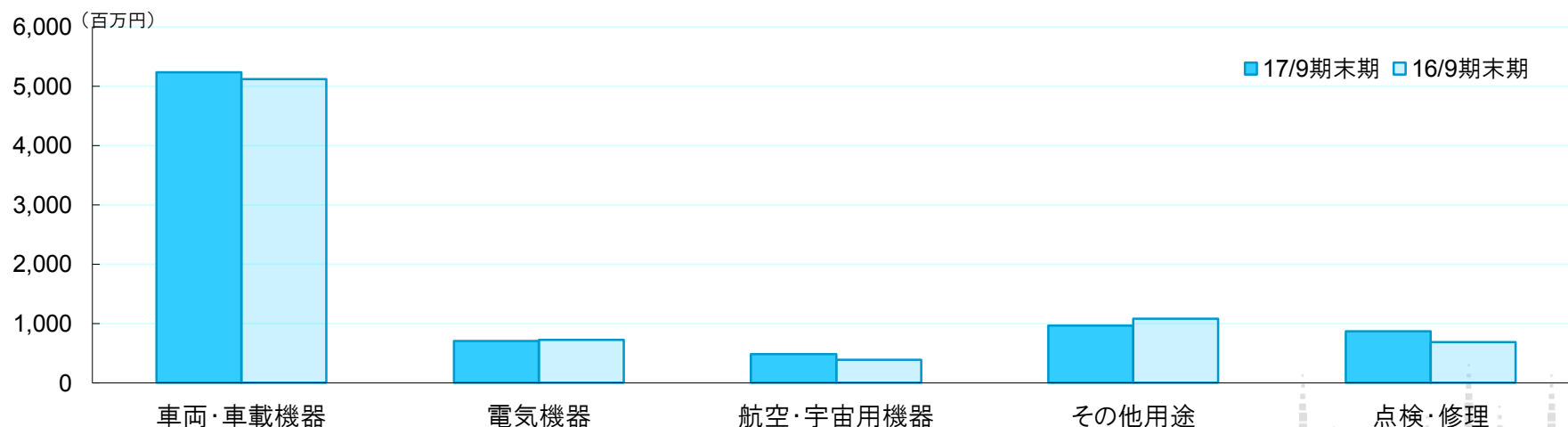
DSS事業 ～概況～



(単位:百万円)

	17/9期	16/9期	増減額	増減率
車両・車載機器向け	5,232	5,125	+107	+2.1%
電気機器向け	708	723	△15	△2.1%
航空・宇宙用機器向け	485	383	+102	+26.6%
その他用途向け	968	1,078	△110	△10.2%
点検・修理	865	684	+181	+26.5%
合計	8,261	7,996	+265	+3.3%

- 航空・宇宙機器向けは、国内において大型案件があったのに加え、海外(ヨーロッパ)でも有名顧客からの案件があったことにより、順調に売上は増加いたしました。
- 車両・車載機器向けは、国内における大型案件がなかったものの、案件数が伸び、順調に売上は増加いたしました。
- 国内を中心に、点検・修理に関する売上が順調に推移し増加いたしました。



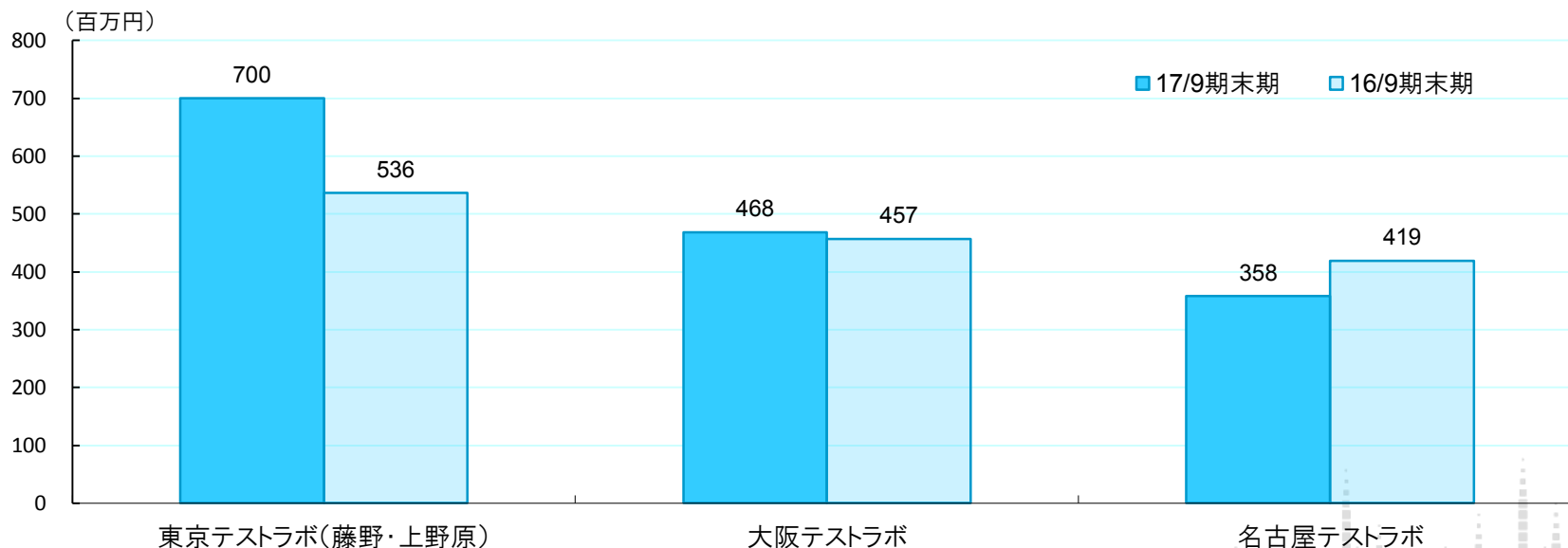
TSS事業 ～概況～



(単位:百万円)

	17/9期	16/9期	増減額	増減率
東京テストラボ (藤野・上野原)	700	536	+163	+30.5%
大阪テストラボ	468	457	+11	+2.4%
名古屋テストラボ	358	419	△60	△14.3%
子会社外部売上	58	15	+42	+273.5%
合計	1,586	1,429	+157	+11.0%

- 東京テストラボ上野原サイトは、順調な稼働により、前年度比+30.5%となりました。
- 大阪テストラボは、大型案件が順調に稼働したことにより、前年度比+2.4%となりました。
- 名古屋テストラボは、東海地区における市場への新規参入企業が続く、競争が厳しくなっております。その結果、売上は減少となりました。



MES事業 ～概況～

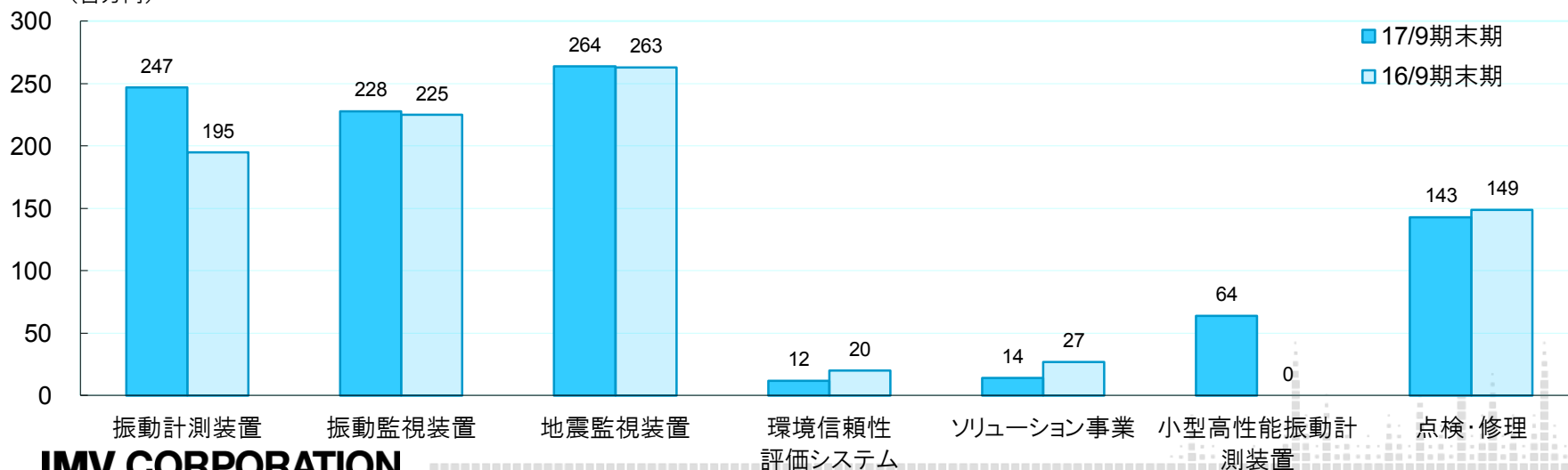
(単位:百万円)



	17/9期	16/9期	増減額	増減率
振動計測装置	247	195	+52	+26.6%
振動監視装置	228	225	+2	+0.8%
地震監視装置	264	263	+0	+0.4%
環境信頼性評価システム	12	20	△7	△35.0%
ソリューション事業	14	27	△13	△48.6%
小型高性能振動計測装置	64	0	64	-
点検・修理	143	149	△5	△3.4%
子会社外部売上	74	67	+7	+10.4%
合計	1,050	949	+101	+10.7%

- 小型高性能振動計測装置の販売を開始し、国内外にて順調に販売が推移いたしました。
- 国内において振動計測装置の販売が順調に推移いたしました。
- フィリピン向けへの地震監視装置の販売が順調に推移いたしました。

(百万円)



業績の見通し(連結)



(単位:百万円)

	18/9期 予想	17/9期 実績	増減額	増減率
売上高	11,500	10,898	+601	+5.5%
営業利益 (営業利益率)	1,200 (10.4%)	1,158 (10.6%)	+41	+3.5%
経常利益 (経常利益率)	1,200 (10.4%)	1,389 (12.7%)	△189	△13.6%
親会社株主に帰属する当期純利益 (当期純利益率)	780 (6.8%)	942 (8.6%)	△162	△17.3%
設備投資	857	500	+357	+71.3%
減価償却費	379	376	+3	+0.7%
研究開発費	468	511	△43	△8.4%
従業員数(人)※	379	365	+14	+4.1%
1株当たり配当金(円)※	7.5	10.0	△2.5	△25.0%

※ 従業員数には、期中平均臨時従業員数を含みます。

※17/9期の配当金につきましては、記念配当2.5円分を含みます。また、2017年12月開催予定の定時株主総会において上記配当金を附議する予定です。



剰余金の配当に関するお知らせ

- 当社は、平成29年11月17日開催の取締役会において、以下のとおり、平成29年9月30日を基準日とする剰余金の配当を行うことについて決議しましたのでお知らせいたします。
なお、本件は平成29年12月22日開催予定の当社第71期定時株主総会に附議する予定であります。
- 株主の皆様に対する利益還元を経営の重要課題の一つとして認識し、将来の事業展開と経営体質の強化のために内部留保を確保しつつ、安定的かつ継続して配当を実施することを基本方針としており、当期の配当予想を7円としておりましたが、単年度の利益だけではなく過去からの剰余金や今後の事業戦略に供する資金等を総合的に勘案し、3円増配の10円(うち、60周年記念配当2円50銭)にさせていただきます。

	決 定 額	直近の配当予想 (平成28年11月14日公表)	前期実績 (平成28年9月期)
基準日	平成29年9月30日	同左	平成28年9月30日
1株当たり配当金	10円00銭	7円00銭	7円00銭
配当金総額	162百万円	—	114百万円
効力発生日	平成29年12月25日	—	平成28年12月26日
配当原資	利益剰余金	—	利益剰余金



1. 会社概要

2. 2017年9月期決算サマリー

3. 今後の取り組み

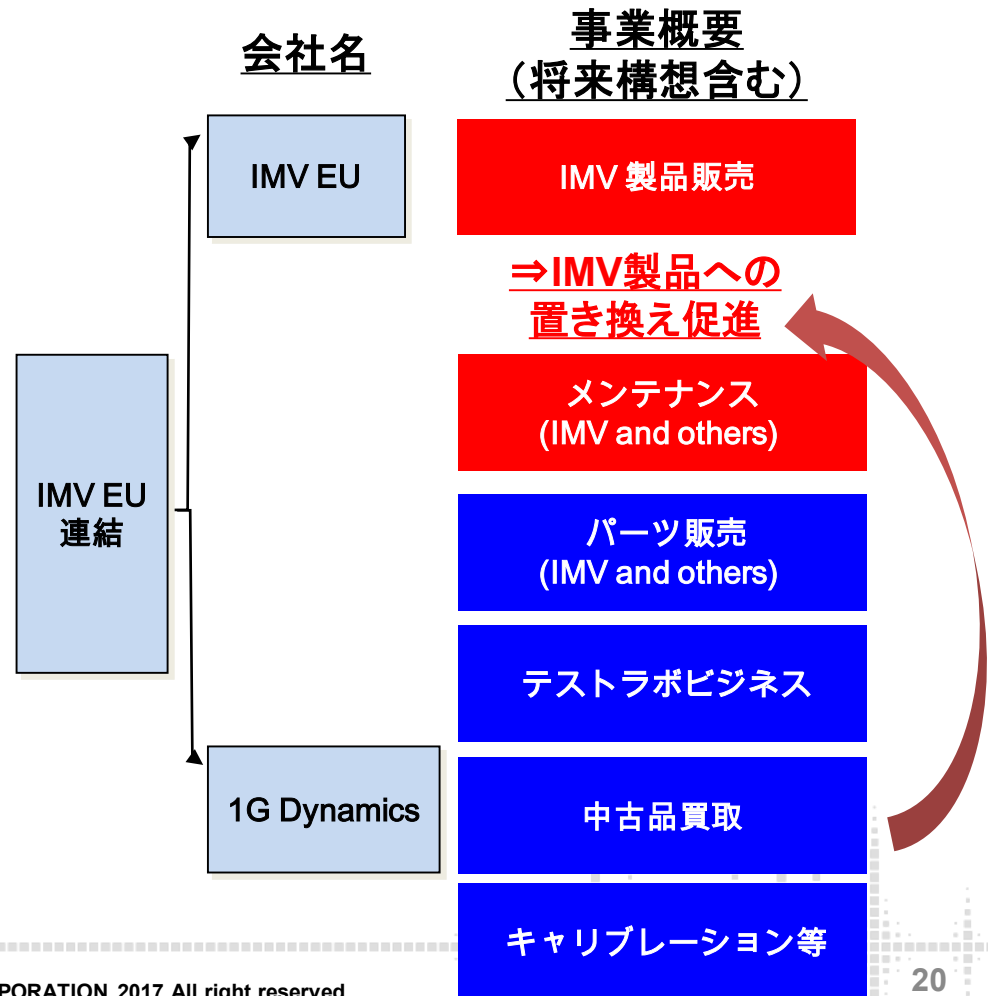
(ご参考資料)



DSS事業の取組み(サービス事業の強化)①

- IMVヨーロッパの子会社として“1G Dynamics Limited”を7月に設立
→世界No.1のメンテナンスサービス会社として、全世界の顧客にサービスを提供。
加えて、中古品買取により、IMV製品への置き換えの促進も実施

1G DYNAMICS LIMITED



DSS事業の取組み(大型機種強化)②



- (主に)自動車業界向けターゲット、世界最大級のA74の販売強化
- (主に)航空宇宙向けターゲット、世界最大級の350kNの販売導入

74 kN 空冷式大型振動試験装置

ハイグレードタイプ振動試験装置Aシリーズに大加振力74kNクラスが登場しました。
従来機より性能が向上したAシリーズが、大加振力試験の要望に応えられるようになりました。



350 kN 水冷式大型振動試験装置

水冷式大型振動試験装置Kシリーズに大加振力350kNクラスが登場しました。
K350/SA50HMは水冷式大型振動発生装置『K-series』の最新機種です。
試験用途の範囲拡大や高精度試験への対応を実現しています。



TSS事業の取り組み:差別化の創出 ①

～ メーカーならではの強みを活かす ～



- 日本製加振機では最大の能力を持つ当社最新鋭機(35トン機)を上野原に設置
→更なる成長が見込まれる航空・宇宙分野の大型加振機ニーズに迅速に対応

* イメージ図

350kNを使用。

* 開発品は更に大きな加振機

→2018年1月より稼動予定

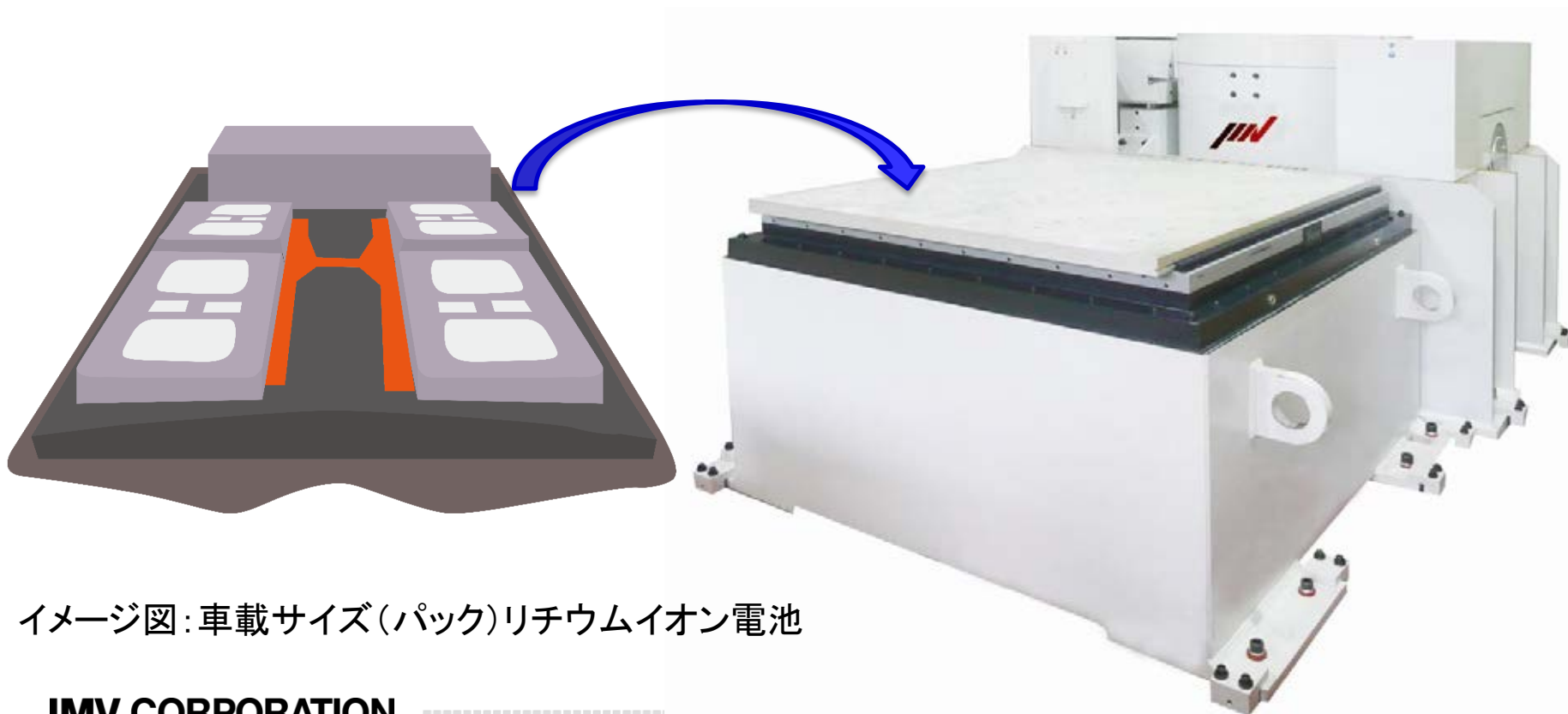


IMV CORPORATION

TSS事業の取り組み:差別化の創出 ② ～ メーカーならではの強みを活かす ～



- EV化加速のグローバルな流れを受けて、車載サイズ(パック型)リチウムイオン電池の加振試験を可能にする大型機(20トン)増設



イメージ図:車載サイズ(パック)リチウムイオン電池



MES事業の取り組み①

- 支持剛性モニタリングシステムの開発

→地盤の支持剛性を評価し、「経年変化による支持剛性の低下」や「急激な支持剛性の低下」を監視する

従来の問題点

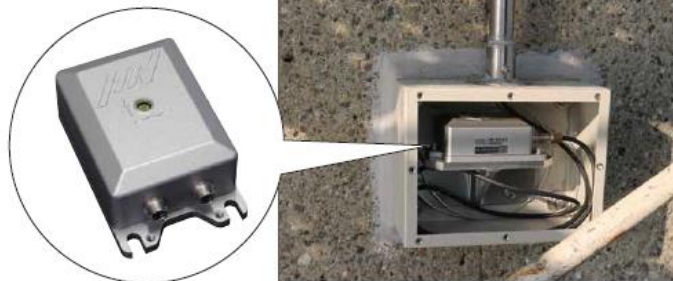


- ・増水、濁流時での計測が困難
- ・潜水士等の手配が事前に必要



開発品

- ・増水、濁流時での計測が可能
- ・必要な時にすぐに潜掘評価が可能



- ・微振動・低周波振動能力が高い
- ・従来品比約50%以下の低コストを実現
- ・耐環境性・施工性に優れモニタリング用に最適

採用例：橋梁



日本経済新聞社にも掲載されました。

2017年10月24日掲載

MES事業の取り組み②



- 新製品: IoT振動診断ユニット Λ -Vibro -ランダバイブロの販売開始
→早速、JAEA日本原子力研究開発機構より受注獲得

安全品質がより厳しくなった原発関連から安心信頼されるIMV

基本性能: 振動計から取得したデータを即時にBIツールにて分析が可能
→事故発生前に瞬時に情報を把握し、関係者に連絡が可能

Λ -Vibro -ランダバイブロ



精密分析

最新のFFT分析レポートを表示します。

波形表示やしきい値の設定も可能で、しきい値を超えた場合はアラートメールを送信可能です。



設置場所の図面を可視化し、どこの計器で異常が起きているか可視化できます。
※定期的に自動リフレッシュ

OAの時系列分析を表示し、気になる地点を選択すると対象のFFT分析レポートが表示されます。

FFT分析を3次元で表現し、傾向を分析することも可能。

ありがとうございました



代表取締役会長

小嶋 成夫

代表取締役社長

小嶋 淳平

経営企画本部長

濱里 一也

IMV株式会社
おかげさまで創業60周年

SINCE 1957

60th
Anniversary



■ お問い合わせ先

IR窓口：経営企画本部経理部 IR担当

TEL：06-6478-2565

FAX：06-6478-2567

E-MAIL：imvir@imv.co.jp

<http://www.imv.co.jp>

○免責事項

本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。投資に関する決定は、ご自身のご判断において行われるようお願いいたします。

本資料を作成するに当たっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保障するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。

本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となることをご承知おきください。



1. 会社概要

2. 2017年9月期決算サマリー

3. 今後の取り組み

(ご参考資料)

貸借対照表の概要(連結)



(単位:百万円)

	17/9期末	16/9期末	増減額		17/9期末	16/9期末	増減額
流動資産	8,190	7,324	+865	流動負債	5,644	5,221	+442
現金預金	2,037	1,712	+325	仕入債務	2,426	2,174	+252
売上債権	3,533	3,360	+173	短期有利子負債	1,953	1,902	+51
棚卸資産	2,229	1,881	+347	その他流動負債	1,264	1,145	+118
その他流動資産	390	370	+19	固定負債	1,475	1,355	+120
固定資産	4,926	4,325	+600	長期有利子負債	918	1,038	△120
有形固定資産	4,189	3,981	+208	その他固定負債	557	316	+240
無形固定資産	376	73	+303	負債合計	7,120	6,577	+542
投資その他資産	359	270	+88	純資産合計	5,996	5,072	+924
資産合計	13,116	11,649	+1,466	負債・純資産合計	13,116	11,649	+1,466

資産の部 : 棚卸資産が347百万円増加し、現金預金が325百万円増加いたしました。

負債の部 : 仕入債務が252百万円増加し、その他固定負債が240百万円増加いたしました。

長期有利子負債は120百万円減少いたしました。

純資産の部 : 純資産は924百万円増加いたしました。

キャッシュフロー計算書の概要(連結)



(単位:百万円)

		17/9期	16/9期	増減額
①	営業活動によるキャッシュ・フロー	1,201	784	+416
②	投資活動によるキャッシュ・フロー	△696	△126	△569
①+②	フリーキャッシュフロー	504	657	△153
③	財務活動によるキャッシュ・フロー	△235	△566	+330
④	現金及び現金等価物に係る換算差額	44	△46	+90
⑤	現金及び現金同等物の増減額	313	45	+268
⑥	現金及び現金同等物期首残高	1,444	1,399	+45
⑦	現金及び現金同等物期末残高	1,757	1,444	+313

フリーキャッシュフロー: 営業活動による収入により、1,201百万円のキャッシュが増加したものの、有形固定資産の取得等による、投資活動による支出により、696百万円のキャッシュが減少し、504百万円増加いたしました。

財務CF : 長期借入金の返済による支出394百万円等の資金の減少要因が、長期借入れによる収入270百万円等の資金の増加要因を上回ったことにより、235百万円の減少となりました。



- 1957 株式会社国際機械振動研究所(旧社名)を設立
- 1988 東京テストラボ開設
- 2005 ジャスダック証券取引所に上場
- 2011 10月、英国に IMV CORPORATION EUROPEAN TECHNICAL CENTRE を開設
(現 IMV EUROPE LIMITED)
- 2012 1月、タイに IMV (THAILAND) CO., LTD. (子会社)を設立
11月、ドイツに IMV CORPORATION German Sales Office を開設
(現 IMV EUROPE LIMITED German Sales Office)



IMV EUROPE LIMITED



IMV (THAILAND) CO., LTD.



IMV EUROPE LIMITED
German Sales Office



IMV株式会社 上海代表所



IMV EUROPE LIMITED
European Manufacturing Centre



東京テストラボ 上野原サイト
高度試験センター

- 2013 5月、IMV株式会社 上海代表所を設立
- 2015 1月、英国にIMV EUROPE LIMITED European Manufacturing Centreを開設
11月、東京テストラボ 上野原サイト 高度試験センターを開設
- 2016 4月、米国にIMV America, Inc. (子会社)を開設
- 2017 7月、英国に1G DYNAMICS LIMITED.(子会社)を開設



IMV America, Inc.



1G DYNAMICS LIMITED



[SECURE THE FUTURE]



IMVが見守る未来

IMVは1957年の設立以来、振動問題のソリューションパートナーとしてさまざまな分野と携わってきました。これからも、製品→パートナー→社会に対して、信頼を形にする企業であり続けます。

Future

安全を見つめて未来の社会に貢献します。

IMV work with our customers and investors to secure their future, developing the products, skills and resources that will bring success. IMV appreciate this and work fast to meet our Partners' future needs.

Integrity

誠実で開かれたパートナーシップを大切にします。

IMV treat our customers, suppliers and investors with the highest of integrity, dealing with all our partners in an open and honest manner. IMV work hard to earn and keep your trust.

Reliability

製品とサービス、すべてに信頼を作り込みます。

Our customers use IMV's products to ensure reliability and performance. We build this reliability into all our products and services. IMV will be there when you need us.

Strength

振動技術の世界リーダーとして経営基盤を強化します。

IMV's financial strength means we will be a long-term partner for our customers and able to invest in the research for new products. IMV have the strength in finances, products and people to serve our customers on a global basis. We have the strength to be the World's Number 1 Vibration Test and Measurement Company.

Technology

顧客ニーズに俊敏に応える技術を開発します。

IMV invest substantially in research to understand our Customers' needs and the products to meet those needs. IMV have been the first to market with many new products and technologies and we will continue to lead the market through technology and innovation for the benefit of our customers and investors.